

## 平成 27 年度広島県大学図書館協議会事業報告

### 1. 会議

1. 平成 27 年度総会  
日時：7 月 2 日  
会場：安田女子大学 5201 教室  
(当番館：安田女子大学附属図書館)  
参加：26 機関 42 名
2. 幹事館連絡会議 第 1 回 5 月 25 日
3. 研修企画委員会 第 1 回 5 月 25 日
4. 共同リポジトリ委員会 第 1 回 3 月 16 日
5. 広島県内図書館連絡会議 12 月 16 日

### 2. 研修会・行事

#### 研修会

##### 第 1 回

日時・会場：平成 27 年 7 月 31 日（金） 広島大学 広仁会館  
テーマ：「図書館の見える化にチャレンジ！ ～図解活用術～」

##### 第 2 回

日時・会場：平成 27 年 12 月 11 日（金） 広島文教女子大学附属図書館  
第一部 「お悩み相談カフェ」（ワールドカフェ形式のワーク）  
第二部 「図書館をブラッシュアップ！」（図解を用いたワーク形式）

#### 共同リポジトリ勉強会

日時・会場：平成 28 年 3 月 16 日（水） 比治山大学図書館  
「機関リポジトリのコミュニティーについて」（広島大学）  
「DOI 導入の事例報告（広島大学、広島都市学園大学、海上保安大学校）  
紀要納入業者からのメタデータ納入（広島経済大学）  
参加：10 機関 17 名

### 3. 事業

1. 協議会ホームページの運用
2. 共同リポジトリ（HARP）の稼働
3. 「ひとめでわかる広島県大学図書館協議会（通称：ひとめマップ）」の更新

#### 4. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催

「全国大学ビブリオバトル 2015～首都決戦～」(※) に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として（平成 27 年度総会承認）以下の通り実施した。

(1)広島県立図書館が予選会主催団体として予選会事務局（ビブリオバトル普及委員会内）に申請を行い、広島県立図書館・広島県大学図書館協議会・広島県立図書館友の会主催で地区決戦を開催。

#### (2)二者の役割

広島県立図書館：予選会事務局との連絡調整・報告、地区決戦の開催、広報。

広島県大学図書館協議会：各大学間の連携、予選会の開催、広報。

#### (3)広島県大学図書館協議会内の実施体制

- ・協議会事業として予選会開催大学を募集し、9 大学で開催した。
- ・広報等を連携して行った。
- ・本協議会主催の地区予選会チャンプについて、地区決戦会場（広島県立図書館）への旅費を支弁した。

#### (4)開催状況

予選会開催大学	チャンプ本	出場者数	観戦者数
広島大学	『ジェノサイド』（高野和明著）	6 名	32 名
県立広島大学	『LE HALL（ル アール）：読み継がれる コンシェルジュのバイブル』（池田里香子作） 地区決戦出場：『執事の仕事術』（新井直之著）	5 名	23 名
呉工業高等専門学校	『朝が来る』（辻村深月著）	5 名	11 名
広島経済大学	『神去なあなあ日常』（三浦しをん著）	6 名	81 名
福山大学	『国境の南、太陽の西』（村上春樹著）	9 名	28 名
広島工業大学	『世にも奇妙なマラソン大会』（高野秀行作） 地区決戦出場：『ときどき意味もなくずんずん歩く』（宮田珠己著）	5 名	17 名
山口大学	『山の人生』（柳田国男作） 地区決戦出場：『平家物語』（市古貞次著）	6 名	30 名
広島修道大学	『悩むチカラ ほんとうのプラス思考』（伊藤友宣著）	5 名	37 名
福山市立大学	『アイネクライネナハトムジーク』（伊坂幸太郎著）	5 名	39 名

※地区決戦チャンプ本：中国 B『ときどき意味もなくずんずん歩く』（宮田珠己著）

発表者：広島工業大学情報学部 中野 啓一

中国 C『平家物語』（市古貞次著）

発表者：山口大学人文学部 平野 文香

平成 27 年度広島県大学図書館協議会総会議事録

日時：平成 27 年 7 月 2 日（木） 13:30～16:30

会場：安田女子大学 5201 教室

参加：加盟館 24 機関 41 名 + オブザーバー（県立図書館 1 名）

1. 開会 当番館 安田女子大学

2. 挨拶 当番館 安田女子大学図書館長 堂野 恵子  
代表幹事館 広島大学図書館長 寺本 康俊

3. 議長選出

慣例により、当番館の安田女子大学館長の堂野恵子を選出した。

4. 報告

(1) 平成 26 年度事業報告

代表幹事館の広島大学 高橋副館長から、平成 26 年度の事業として総会、各委員会等の開催、研修会等について報告があった。

(2) 平成 26 年度研修企画委員会活動報告

研修企画委員長の広島修道大学 木村課長から平成 26 年度の活動報告があった。

(3) 平成 26 年度共同リポジトリ委員会活動報告

広島大学の尾崎副グループリーダーから共同リポジトリ委員会について活動報告があった。

(4) 平成 26 年度広島県内図書館連絡会議

広島県内図書館連絡会議委員館の比治山大学 福田課長から、平成 26 年 12 月 4 日に広島県立図書館において開催された連絡会議の概要が報告された。

5. 各館活動報告（各館、2 分以内）

参加機関の代表から、平成 26 年度に取り組んだ教育支援、研究支援、社会貢献、管理運営について報告がなされた。その後次のとおり質疑応答があった。

呉工業高等専門学校から「広島国際大学のこども図書館の開催について」具体的に知りたいとの質問があり、広島国際大学から回答があった。

広島大学から「広島女学院大学のリポジトリ登録義務化」の具体的内容について質問があり、広島女学院大学から博士論文のことであるとの回答があった。

広島経済大学から「エリザベト音楽大学の図書館業務委託の終了」経緯について質問があったが、エリザベト音楽大学から終了の理由については館長が出席し

ていないため詳細は不明との回答があった。

## 6. 協議

### (1) 平成 26 年度決算書（案）および監査報告について

代表幹事館の広島大学の尾崎副グループリーダーから平成 26 年度の決算報告が行われた後、監査館である尾道市立大学の渡邊専門員から監査報告が行われ、異議なく承認された。

### (2) 平成 27 年度事業計画（案）について

代表幹事館の広島大学 高橋副館長から平成 27 年度の会議予定及び 2 回の研修会開催についての説明、またビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施についての説明があった。

さらに、本協議会の HTML で作成・更新を行っている Web ページを WordPress による Web サイトへ移行することの説明があった。

広島修道大学から移行費用について質問があり、広島大学より WordPress はフリーソフトであるため費用は発生しない旨回答があり、事業計画全体について、異議なく承認された。

### (3) 平成 27 年度予算書（案）について

代表幹事館の広島大学 尾崎副グループリーダーから平成 27 年度予算案が提案され、原案通り異議なく承認された。

### (4) 平成 27 年度役員館などの選出について

代表幹事館の広島大学 舟本グループリーダーから次の説明があり異議なく承認された。

幹事館と企画研修委員館は、平成 27 年度は任期中であり改選なし。

監査館は輪番で広島県立大学。

共同リポジトリ委員館は、広島大学、福山市立大学、日本赤十字広島看護大学、比治山大学、広島経済大学、広島工業大学。

広島県内図書館連絡会議館は、広島市立大学、比治山大学、安田女子大学。

### (5) 次期当番館について

役員館の選出と同様、代表幹事館の広島大学 舟本グループリーダーから説明、推薦があり了承された。

総会会場順次表により輪番で近畿大学工学部。

## 7. 承合事項

広島都市学園大学から提出があった (1)「雑誌・新聞の保存年限及び保存方法」

(2)「資料を返却しない学生、また当該資料への対処」について趣旨説明と各館から回答があった内容について広島都市学園大学の片山司書からコメントがあっ

た。

さらに、(2)の当該資料への対処に関連し、①廃棄せざるを得ない資料の判断基準 ②廃棄する時期の2点について本会議の場で追加の照会があり、各館の状況が説明された。

## 8. その他

オブザーバーとして参加の広島県立図書館 植田課長から、

- ・インターネット予約貸出サービスの状況
- ・「全国大学ビブリオバトル2015～首都決戦～」
- ・県立図書館では耐震工事のため年末年始に臨時休館するがILL等は継続
- ・年度末に新システムに更新する際に参加館に費用負担を掛けない方法で横断検索を実現する予定
- ・研修事業を実施する際、可能なものについて相互乗入れを進めていくことの説明があった。

## 9. 閉会

次期当番館の近畿大学工学部メディアセンター 松富センター長から当番館受託と閉会の挨拶があり、閉会した。

以上

平成 27 年度広島県大学図書館協議会研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第 1 回

日時：平成 27 年 7 月 31 日（金）

会場：広島大学 広仁会館

テーマ：「図書館の見える化にチャレンジ！ ～図解活用術～」

講演：「図書館の見える化にチャレンジ～図解活用術～」

講師：多部田 憲彦 氏（図解改善士、日産自動車（株））

グループワーク：ファシリテート 多部田 憲彦 氏

参加：25 機関 36 名（うち公共図書館から 2 機関 2 名）

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2015/09/2701quest.pdf>

第 2 回

日時：平成 27 年 12 月 11 日（金）

会場：広島文教女子大学附属図書館

内容：第 1 部 「お悩み相談カフェ」（ワールドカフェ形式のワーク）

第 2 部 「図書館をブラッシュアップ！」（図解を用いたワーク形式）

ファシリテータ：広島修道大学図書館 木村 千鶴

参加：19 機関 28 名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2016/03/2702quest.pdf>

2. 評価と課題

第 1 回

「図解で物事や考えは整理出来る、課題は解決しやすくなる。そのためにより良い図解の仕方考えましょう。」と提案する「図解改善士」多部田氏をお招きし、図書館が抱えている課題を一般化し、それを図解で解決していくという講演とワークの研修とした。講師は、海外の赴任先でのコミュニケーションツールとして図解の活用を始め、その経験から、図解を使って意思を伝え、問題点を明確にするという考えを広める活動を進めている。この研修会では、図解を理解する、図解を使えるようになる、図解を使って図書館の課題を「見える化」することで解決できるようになる、ということを目指とした。

参加者のアンケート回答によると有意義であったとの回答が 97%をしめ、「職種が違っていても、価値観の違う相手に伝えるということは共通であり、そこで図解を用いて解決することについては興味深かった。」などの感想をいただいた。また、グループワークについても同様に好評で、「現状を書きだすという作業がよかった。」「他館の着眼点が参考になります。」「具体的な内容で実施されたので、実務でも活かしていきたい。」という評価をいただいた一方で「グループワークは短時間で考えて、話し合い、結論を出すことに慣れていなくて難しかった。」という感想もいただいた。自館に研修内容を持ち帰って実施できることへの期待もあり、次年度も同様の研修を望む意見をいただいた。

## 第 2 回

前年度のアンケートにおいて、「情報交換の場を設けてほしい」という希望があり、研修会の中でその場を作り、できる限りの問題解決、もしくは、解決に向けての方向性を見出してみようという目的で、第 1 部はワールドカフェ形式で悩みを語り合い、第 2 部では、第 1 部で持ち寄った悩みを第 2 部で解決していく流れとした。第 2 部のワークでは第 1 回の研修会で実施した「図解」を用いたワークを自分たちで運営することで、実践に結びつけるということ、また、職場に持ち帰れるワークを体験し、現場における業務改善の糸口を見つけるための研修と位置付けて実施した。第 1 部のワールドカフェでは、「同じ悩みを共有でき、解決策や工夫を知ることができてとても良かった。」など、参加者全員から有意義であったとの感想をいただいた。ワールドカフェ方式についても初めての方がほとんどであったが、「机移動が新鮮でした。メンバーも入れ替わるので色々意見が聞くことができた。」との感想もいただき総じて好評であった。第 2 部の図解を使ったワークについては、グループ内で意見を交わし、「見える化」することで、すぐに取り組めること、コストのかからないアイデアなども生まれていた。一方、第 2 部においては流れの確認など、運営において改善すべき点があった。

共同リポジトリ委員会報告

HARP 参加機関数

16 機関

第 1 回委員会・勉強会

【日時】 平成 28 年 3 月 16 日（水）14 時 00 分～16 時 55 分

【場所】 比治山大学図書館

【出席者】 14 大学 25 名（拡大委員会とし、HARP 参加館が出席）

【議題】

1. 報告

(1) 平成 27 年度予算執行状況について

2. 協議

(1) 平成 28 年度予算(案)について

【勉強会】

- ・ DOI 付与の報告（広島大学，広島都市学園大学，海上保安大学校）
- ・ 紀要納入業者からのメタデータ納入の報告（広島経済大学）
- ・ 機関リポジトリのコミュニティについて（広島大学）



## 平成 27 年度広島県大学共同リポジトリ委員会・勉強会 議事要録

日 時 平成 28 年 3 月 16 日 (水) 14 時 00 分～16 時 55 分

場 所 比治山大学図書館

出席者 14 大学 25 名参加 (拡大委員会とし、HARP 参加館が出席)

### 開会

広島工業大学・共同リポジトリ委員会 森保委員長の挨拶で開会した。

### 議事

#### 1. 報告・協議

##### (1) 平成 27 年度執行状況について(報告)

事務局・広島大学 川村より 3/16 までの平成 27 年度収支について説明があった。

##### (2) 平成 28 年度予算について (協議)

事務局・広島大学 川村より、資料に基づいて平成 28 年度予算について提案があった。その場で意見・質問などの発言はなかった。後に意見等があれば HARP-ML など  
で検討していくことが確認された。

#### 2. 勉強会

開催要項に基づき、勉強会が行われた。内容は以下のとおりである。

- ・ 各機関のリポジトリに関する近況報告を含む参加者自己紹介
- ・ DOI 付与の報告 (広島大学 川村, 広島都市学園大学 片山, 海上保安大学校 伊藤)
- ・ 紀要納入業者からのメタデータ納入の報告 (広島経済大学 岡崎)
- ・ 機関リポジトリのコミュニティについて (広島大学 尾崎)

それぞれのトピックの後には質疑応答が行われた。また、尾崎氏の報告については意見交換を行った。以下に主な意見等を記す。「JAIRO Cloud(JC)の利用料は HARP より高い。無料であれば次は JC という議論も以前にあったが、再検討が必要かもしれない」「次期サーバを買うのであれば資金面の検討が必要である」「広島大としては今のところ、まだサーバを持つ体力はある」「JC に入るとしても、コミュニティとしての HARP はどうするか検討が必要」「HARP をクラウドに移す場合は通信費の懸念がある」「広大理ポジトリの通信費を考えると JC の利用料が高すぎるわけではない」

また、広島国際学院大学 國松氏より「学術論文、ネットで原則公開へ 公的資金を使った研究対象」(朝日新聞デジタル 2016.1.24 13:51) の紹介があり、このこと(公的資金の成果による論文の原則公開)に対する大学の取り組み状況について情報交換を行った。現在のところ、検討を進めている大学はないということであった。

以上

広島県内図書館連絡会平成27年度会議議事録

1 日 時 平成27年12月16日（水） 午後3時25分～午後4時40分

2 場 所 広島県立図書館応接室

3 出席者

(1) 委 員

広島市立大学附属図書館 グループ長 出原陽子

比治山大学図書館 図書課長 福田房子

安田女子大学図書館 図書課長 日比野政彦

広島市立中央図書館 事業課 館内サービス係長 千原真純

呉市中央図書館 課長補佐 吉村久美子

広島県立図書館 資料課主査 八田節子

(2) オブザーバー

広島県立図書館 館長 大原重秋

(3) 事務局

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ 松本侑子

広島県立図書館 副館長（兼）調査情報課長 谷崎薫

広島県立図書館 事業課長 植田佳宏

広島県立図書館 事業課司書 澄川起代子

広島県立図書館 事業課非常勤職員 宮崎希望

4 議 題

(1) 来いぶらりネット@ひろしま（広島県域図書館情報ネットワーク）について

ア 事務局次長が、昨年9月に広島県立図書館が実施した「来いぶらりネット」の機能改善に係るアンケート調査の集計結果について、資料1及び資料2によって説明した。

<公共図書館調査結果>

(7) 資料1の間4「改善要望について当てはまるもの」で、「賛成」との声が多かった項目は、「（検索）スピードを速くする」、「雑誌総合目録が「よみがな」で検索できる」、「相互貸借管理」の「貸出状況一覧」にISBN等の情報を追加する」、「FAX依頼用フォームの出力」となっている。

(4) 今年度末にシステム更新予定の「来（ら）いぶらりネット」においては、「（検索）

スピードを速くする」ことに関しては、これまでは横断検索全サイト統合で30秒かかっていたものが、約6秒に短縮される予定となっている。

- (4) 「データ提供」に関しては、現在データ提供を行っていただいていない公共図書館2館（坂町，神石高原町）も「提供可能」と回答いただいております、この2館及び県立広島大学と、現在、参加に向けて調整を行っているところである。

<大学図書館調査結果>

- (7) 資料2の問1「利用頻度」は「ほぼ毎日」とする館は1館のみとなっており、公立図書館と比較すると利用頻度は低くなっている。
- (4) 資料2の問4「改善要望について当てはまるもの」で、「賛成」との声が多かった項目は、「横断検索のスピードを速くする」、「県内新聞総合目録が一覧表示のみではなく、検索ができる」等となっている。
- (4) 資料2の問5で、「費用負担が生じない場合に、データ提供館として参加する可能性」を問うたところ、9館から「可能性あり」という回答があり、「参加館に費用負担を掛けない方法での横断検索」が実現できれば、大学図書館の参加は幾分増加することが期待できる。

イ 委員からは次のような意見があった。

<大学>

- (7) 標準機能のままでよく、費用がかからないのであれば、蔵書データの提供が可能である。来年6月の広島県大学図書館協議会総会で来いぶらりネットへの蔵書データの提供について議題として提出し、各館の意向等を聞いていく方向でよいのではないかと。
- (4) 一般の方が「来いぶらりネット」で検索して来館されても、貸出しができないということもある。無駄足にならないような広報が必要だ。
- (4) 広島県大学図書館協議会で各図書館の利用方法をまとめている「ひとめマップ」を作っている。利用者への広報に使えるのではないかと。
- (4) 大学図書館と公共図書館では資料の扱いに違いがある。大学図書館では、教育、研究、学習のために、貸出しではなく来館してその場で利用していただくようになっている場合が多い。あらかじめそれを知っておいてもらわないといけない。せっかく所蔵している資料を活用していただけるという点では進めていくべき取り組みである。

<公共>

- (7) 窓口で、大学図書館は利用条件があるという情報提供はしている。

(イ) 公共図書館の一般的な利用者としては、大学図書館に直接行って資料を閲覧するというのはなかなか難しいのではないかと。公共図書館を通して何らかの形でアプローチをしたいという方が多いのではないかと。と思う。「ひとめマップ」があれば、利用に対する理解が深まると思う。

(2) 広島県内大学図書館等と広島県内公共図書館の連携について

ア 事務局次長が、資料3及び資料4によって、大学図書館等との連携に関する公共図書館側の要望や連携の状況について説明した。

(7) 資料3は、この会議に先立ち、広島県公共図書館協会加入館を対象に行った「大学図書館等との連携について」のアンケート結果である。複数の館から「(来いぶらりネットの横断検索への) 大学図書館の参加を増やしてほしい。」、「送料負担など改善されると利用しやすい。」、「県立の相互貸借便を利用できると助かる。」との意見があった。

(イ) 当協会が主催した「特別研修1」(障害者差別解消法施行と図書館サービスに関する研修)について、大学図書館にも参加を呼び掛けたところ、4大学4名が、「特別研修2」(「海外事例から見た未来の図書館に期待される役割と司書のスキル」)には6大学7名が参加した。また、広島県大学図書館協議会から案内のあった広島県大学図書館協議会平成27年度第1回研修会には、広島県公共図書館協会から2名が参加した。

(ウ) 今年度から、広島市立図書館と広島県立図書館が安田女子大学の図書館に関する科目のうち「図書館実習」を8月から9月にかけて行った。

イ 委員からは、次のような意見があった。

(7) 特別研修2に参加した。内容が大学図書館向けの研修でありがたかった。

(イ) 市町立図書館は、まずは県内の図書館の資料を利用したいという考え方が基本にある。CiNiiArticles等もあるが、広島県大学共同リポジトリを、県立図書館のシステム上で横断検索のように検索できるようになると良い。各大学のホームページを開いて、それぞれ検索すると大変なので、一括で検索できる場があると便利である。

(ウ) CiNiiArticlesは全文が見られる論文は少ない。県内は、広島県大学共同リポジトリで全文見ることができる。それを知らずに複写に来られる人が多い。

(エ) 研修の相互乗り入れが具体化し、進んでいるのは良いことである。

(オ) 図書館実習では御世話になった。負担を軽減しつつ、お互いに実りの多いようにこ

れからも実施していただければと思っている。安田女子大学図書館も、来いぶらりネットへの参加を調整中である。

ウ 事務局次長が、大学図書館等に対して、5点の提案を行いたい旨を説明した。

(7) 来いぶらりネット@ひろしま（広島県域図書館情報ネットワーク）は、平成28年3月27日に新システムに更新する予定で準備を進めている。次期システムでは、参加館にプログラム開発等の経費負担が生じない方法での構築を目指しており、未参加館及びデータ未提供館におかれては、このネットワークへの参加や横断検索へのデータ提供について改めて検討していただきたい。来年6月にある広島県大学図書館協議会総会でこのことについて説明する時間をいただければと思う。

(イ) また、来いぶらりネット@ひろしま（広島県域図書館情報ネットワーク）の機能改善について、御意見等をお伺いすることがあると思うので、その際には御協力をお願いしたい。

(ウ) 「県内図書館等 新聞・雑誌総合目録」及び「相互貸借・文献複写取扱い」を、毎年度改訂するために、この作業に必要なデータを提供していただきたい。

(エ) 広島県内でのビブリオバトルの普及については、大学図書館等と協調して取り組むこととし、広島大学図書館を窓口として協議していきたい。

(オ) 研修会や講演会の類いを、公共図書館との共催で実施できるよう、或いは、各々が実施する研修会や講演会に「相互乗入れ」が可能となるよう、引き続き配慮していただきたい。

エ 委員（大学）からは、特に意見はなく、当面そのように進めてもらいたい、ということになった。